

# ① 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- **自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。** 家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ほほえみ
(ユニット名)	A 棟
所在地 (県・市町村名)	三種町
記入者名 (管理者)	佐藤 慶子
記入日	平成 21 年 9 月 11 日

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営上の方針や目標等を具体化し、介護従業者に日常的に話している。 理念「老いても安らぎと自信をもって自分らしく暮らしたい」	
2	○理念の共有と日々の取り組み  運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々生活の中で、利用者の心理状態を把握しつつ、個々の状況に合わせた活動及びケアの実践を行っており、すべての職員がグループホームほほえみの理念を述べる事ができ、常に運営理念の実現に取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関及び各棟内に、ほほえみ理念を掲示するほか、行事や運営推進会議において、地域の民生委員や家族に理解してもらえよう図っている。運営理念を利用案内時の説明文書及び施設内の見やすい場所に明示し、かつ利用者・家族・地域の人たちに説明している。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の散歩に出かけ、近所の人と挨拶をかわすなどして、顔なじみの関係となっている。	○  今後も近隣の方々と馴染みの関係を維持できるよう努めていく。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事（プランター作りやお祭り）などに積極的に参加している。	○  今後も地域の一員として、地域の活動に参加し交流を深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	家族会開催時、外部より講師を招き利用者の 家族や地域の方と一緒に勉強会を行ってい る。	○	今後もこの活動を続けていきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組み、外部評価で指 導された事項に関しては、グループホーム会 議で話し合い、サービス改善に活かしてい る。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこの意見をサー ビス向上に活かしている	外部評価の結果及び改善策を運営推進会議で 報告し、利用者や家族の意見を取り入れなが ら、改善に向け具体的に取り組んでいる。		
9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	市町村担当者へ事業所の事情やケアサービ スの取り組みを報告し、必要に応じて相談し ている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度に関する研修には参 加した事はあるが、現在、必要とする利用者 がいないため活用にはいたっていない。利用 者の権利擁護義務については、契約時にわか りやすく説明している。		
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	内部研修において講師を依頼し、高齢者虐待 防止法に関する研修会を行っている。また、 すべての職員に正しく理解してもらい、虐待 のないケアを実践している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12 ○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には、丁寧に説明し、同意を得ている。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、利用者が意見や不満・苦情を言えるような信頼関係を築き、出された意見は、グループホーム会議で話し合い日々のケアに活かしている。		
14 ○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的なホーム便りの発行や、面会時に苑行事や本人の健康状態を報告している。預かり金については、明細書の内容を説明しサインを頂いている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見・不満・苦情等においては、家族会及び年2回のアンケート調査の結果に基づき、改善を図りながら運営している。	○	今後も家族会を開催し、意見や要望等を話せる機会を作る。
16 ○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員と管理者の意見交換（随時）</li> <li>・経営者による職員との面談（年2回）</li> </ul>		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の勤務体制や臨機応変な対応について、管理者と職員がよく話し合いながら調整している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者に関しては、利用者個々の状態を徹底把握することで、常に利用者家族への情報提供できる。更に、事業所に関わる地域及び関係機関連絡等の重要性も考え異動はしない。職員に関しては、当事業所は2ユニットあり、玄関を共有しA棟・B棟に分けられている。各ユニット一人夜勤ではあるが、同じ建物内にあるため協力体制も出来ている。更にA棟B棟の利用者と職員の交流も多く馴染みとなっている。現在のところ、A棟とB棟の勤務異動はあっても他部署（通所介護事業、短期入所生活介護事業所）への異動は考えていない。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設者研修、基礎研修、実践研修、管理者リーダー研修等済。年間研修計画（社会福祉協議会主催）は新任研修から中堅（専門性・組織性）研修、専門分野研修、相談員研修、研修委員研修、指導者研修Ⅰ・Ⅱ、施設長研修（事業管理者まで）、内部研修（毎月テーマを決め勉強会）、外部研修（外部に講師依頼）年2回実施している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	能代山本グループ協議会に参加、開設者研修、管理者研修、協議会企画研修参加（年数回）及び事例検討会に参加し情報交換を行っている。他事業所訪問し、利用者との関わりや活動を見学しながら相互意見交換を行っている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年二回、全職員と個別面談し、仕事上の悩みや個々の悩み（対人関係など）を聞きながら、働きやすい環境づくりを行っている。また、年二回、全職員（夜勤者除く）の親睦会を実施し、ストレス解消を図っている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者を信頼し一任している。しかし事業所内において解決できない悩みなど、週に数回話し合うことで少しなりとも管理者の負担軽減を図るようにしている。月1回、管理者会議において、他部門管理者との意見交換の場を設けている。職場訪問し、職員の勤務状況を見ながら個々に評価している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で、日々の暮らしの出来事や生活状況を報告し、家族と共に本人の生活を支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	普段の生活状況や心身の状態などを、こまめに家族へ報告している。また、可能な方には外出や外泊を勧めたり、施設行事に家族を招待したりして、本人と家族の関係が継続できるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所後も行きつけの床屋を利用したり、通院時や併設されたデイサービスで、知人や友人に会った時にゆっくり話せるよう配慮し、関係が途切れないよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者との会話やケアを通して、その日の感情や状態を把握し、個々の個性を尊重しながら利用者同士の関係が円滑になるよう支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設へ移られたり、入院され契約が終了された方にも、訪問したり家族からの相談にものっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中で、言葉や表情・行動から本人の思いを把握するよう努めている。意思疎通が困難な方は、家族と話し合い、本人が安心して生活していけるよう検討している。	
34	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事前調査で、これまでの生活歴やライフスタイル等を本人や家族から詳しく聴いている。利用後も、本人や家族と信頼関係を築きながら情報を得るようにしている。	
35	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている	一人ひとりの一日の暮らしのリズムを把握し、個々の「できること、できないこと」を見極めて、その人のペースを保ちながら暮らせるよう援助している。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族から意見をきいたり、職員全員でカンファレンスをしたりして、本人がその人らしく過ごせるような介護計画となるよう努めている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間が終了する前に、モニタリングして評価している。終了前に状態が変化した場合は、カンファレンスをして現状にあった新たな介護計画を立案している。	



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録は、介護計画の沿った記録となるような形式を取り入れている。職員の気づきや利用者の状態変化も個々のケース記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けていないが、利用者にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援・医療処置を受けながらの生活継続、希望がある場合は、終末期の入院の回避ができるよう、主治医との連携を密に図っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域での暮らしができるよう、消防・警察・自治会・民生委員との意見交換する場を設けたり、周辺施設への働きかけやボランティアの協力も呼びかけている。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や体調に応じて、訪問美容サービスやカットボランティアを受けている。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加されており、周辺情報や支援に関する情報交換を行うなど、協力関係が得られている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用者と家族の要望に応じて利用前からのかかりつけ医での医療を受けてもらえるよう、通院介助を行ったり訪問診療にきてもらったりと、本人の状態に応じて対応している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院の精神科医師より、認知症について適切な指示や助言をもらっている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない時は、併設されているディサービスやショートステイの看護職員の協力も得る事ができる。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合には、本人のストレスや負担を軽減するために、家族等と相談しながら医療機関に対して本人に関する情報提供やケアについての話し合いを十分に行う。また、家族とも情報交換しながら、回復状況等、速やかな退院支援に結びつけている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向を確認しながら、できるだけ早い段階から対応について話し合うようにしている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の気持ちを大切にしながら、家族とも話し合い、利用者が安心して終末期を過ごせるよう取り組んでいる。また、急変した場合は、すぐに対応してもらえるよう医療機関とも連携をとっている。	○	少しの体調変化も見逃すことのないよう常に気を配り、急変した際も冷静に対応できるようマニュアルを頭に入れ行動していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>これまでの暮らしが損なわれないよう、生活環境・支援の内容・注意が必要な点について情報提供し、ダメージ防止に努めている。</p>	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個々の性格などを把握したうえで、言葉遣いや対応には十分注意している。また、独自の個人情報保護マニュアルを作成し、それに基づいて秘密保持の徹底を図っている。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>職員は利用者という時間を通して、それぞれ利用者に合わせて声をかけ、日常生活の中で利用者自身が決定する場面をつくるようにしている。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れは決まっているが、一人ひとりその日の状態に合わせて生きがい活動に促したり、また、居室で過ごしたりとその人らしく過ごせるよう支援している。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>行事や外出の際、その人らしいおしゃれや身だしなみが出来る機会を作っている。また、個々の要望に合わせて馴染みの美容院へ行ったり、訪問理美容・ボランティアカットを利用されている方もいる。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは、利用者の力を活かし、簡単な調理補助や後片付けを依頼し、職員と共に行っている。メニューも畑でとれた野菜や旬の食材・新鮮な物を取り入れ、利用者好みの物を提供している。		
55 ○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの嗜好物を理解し、一緒に買い物に行ったり、日常生活の中でそれらの嗜好物を楽しめるようにしている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	排泄チェック表を用いて個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。尿意のない方でも時間を見ながら誘導する事によって、トイレで排泄できている。	○	少しでも自立した排泄ができるよう、一人ひとりの状況に合わせた支援を行っていきたい。
57 ○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者本人の希望された時間やタイミング、その日の健康状態に合わせて入浴してもらっている。また、温泉入浴であり、利用者にはとても喜んでもらっていて、心身ともにリフレッシュすることができている。	○	利用者一人ひとりの好みの湯かげんに合わせ入浴することで、気分転換を図っている。また、入浴を拒む人に対しては、声かけを工夫し入浴を促したり、少しでも入浴する事が楽しみの一つになるように努めている。
58 ○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の体調に合わせ、日中の活動を促し一日の生活リズムを整えている。その時々状況に応じて、個別にゆっくり休息できるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で利用者一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできる仕事を行ってもらっている。また、生きがい活動では干し柿やおはぎ作り・生け花等を行ったり、地域の行事に参加したりして楽しんでもらえるよう支援している。	○	室内のモップがけやふきそうじ、洗濯物たたみ、茶碗ふきなど、利用者一人ひとりがその日の状態に合わせて行えるよう支援している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談しながら、利用者の希望で少額のお金を所持している方もいる。買い物等で簡単な支払いの場合は、本人が支払えるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの体調や希望に応じて、日常的に近隣を散歩したりドライブに出かけたりして、気分転換を図っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の誕生日には外出支援を行っており、利用者本人、家族と話し合い相談しながら計画を立てて実施している。利用者にとって特別な楽しみ、行きたい場所へ外出するなどして素晴らしい一日になるよう支援している。		
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・暑中見舞いなどを、利用者と共に作成し家族や知人に送っている。また、日常的に電話や手紙を出せるよう支援し、家族や知人とのつながりを大切にしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族などの面会を歓迎し、家庭的な雰囲気の中で安心して居心地良く過ごせるよう努めている。また、希望があれば、一緒に泊まってもらうなどの配慮もしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束のないケアに取り組めるよう、身体拘束に関する勉強会を実施し、内容とその弊害の理解に努めている。ミーティング等でも、日頃のケアを振り返り共有確認を図っている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	玄関にはチャイムセンサーが設置されており、職員も見守りを徹底している。外へ外出しそうな入居者の様子を察知したら、さりげなく声かけするなど、見守る事で安全・安心、自由な暮らしを支援している。		
67	○利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の様子がわかりやすい構造となっており、日中はホールにいる職員が見守りをしている。夜間は定時巡回を行い安全に配慮するとともに、居室が見通せるよう、事務所で随時対応に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬・消毒薬等は、鍵付きのキャビネットに管理している。裁縫道具・刃物は、それぞれの利用者の状態に合わせて管理方法の取り決めを行っている。		
69	○事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを記録し、職員全員が認識できるようにしている。万が一、事故発生時は、事故報告書を作成し、職員全員で話し合いを行い対策を立て事故発生のないよう努めている。	○	今後も事故を未然に防ぐため、一人ひとりの状態から予測される危険を検討していく。
70	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	・日中、夜間と緊急対応マニュアルを作成しており、内容を職員全員がしっかり理解している。 ・消防署の協力を得て、普通救命講習を受講している。	○	救急蘇生法についての学習や訓練を定期的に行っていく。
71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中・夜間想定で、年二回、消防署の協力を得て、利用者と一緒に避難訓練を行っている。自治会長さんや近隣の協力体制も整っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者一人ひとりに起こりえるリスクについて職員全員で話し合い、その状態を家族に説明し、本人の状態に応じて対応策を見直している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルを表に記入し、職員が、一人ひとりの状態や体調変化の観察を把握し、異変時も速やかに対応できるよう努めている。	○	利用者の異変時には、速やかに看護師と連携をはかり、状況に応じて受診につなげている。
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者一人ひとりの薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、指示通り服用できるよう支援している。内服薬の変更があった場合は、ケース記録・受診記録・業務日誌などに記載し、職員全員が把握できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の入居者にあわせ、排便に通じる飲食物や水分補給の提供、適度な運動に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを行い、義歯は洗浄剤を用いて手入れをし、汚れや臭いが生じないように支援している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量や水分量をバイタル表に記載して、職員全員が把握できるようにしている。摂取量や水分量が不足がちな時は、入居者の好みの物を提供したり、水分につながる食べ物を用意して摂取量が不足しないよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	利用者の家族の同意を得たうえで、職員と共に年1回のインフルエンザ予防接種を受けている。また、感染マニュアルに沿って感染予防に努めている。		
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫内の整理整頓や清潔保持につとめ、調理後の食材を残さぬよう管理し、毎日、まな板やふきん等の殺菌消毒に心がけている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花や装飾品を飾り、親しみやすく、近隣の人や入居者の家族が安心して出入りできるよう工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた張り絵を飾ったり、聞き覚えのある音楽を流したり、入居者と月ごとのカレンダーを色づけしたりして、楽しく過ごせるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中でも落ちつける居場所をつくり、仲良しの入居者同士と楽しく会話ができるよう、座る場所の工夫をしている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、使い慣れた家具や日用品 を持ち込む事で、住みよい空間を作り居心地 よく過ごせるような工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	外気温との大きな差がないよう、温度調節し たり換気に努めている。空調の吹き出し口と 利用者の座る場所や眠る場所を配慮し、椅子 や寝具の位置を設置している。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	建物内部や居室内を、一人ひとりの利用者が 安全に生活できるよう、また、自立した生活 をしていただくよう、身体機能に合わせた家 具や寝具の位置を工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	個々の部屋名を花の名前で表し、手作りプ レートを居室前に掲げたり、トイレにはわか りやすい目印をつけている。また汚れのある 場合は、すぐに掃除したり、混乱や失敗を招 くような物品を設置しないようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	花壇や畑の一面にベンチを置いて、作業した り休息しながら、花や野菜を見て楽しめるよ うな環境を作っている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①温泉であることから、利用者の希望に合わせて温泉入浴楽しみながらリフレッシュしていただいている。
- ②ほほえみの農園では、利用者と苗植えから収穫まで行動を一緒にしてもらい喜びを分かち合っている。
- ③併設されている他事業所（デイサービス、ショートステイ）と納涼祭やクリスマス会などの行事を通して、利用者同士の交流が図られている。
- ④誕生日には、本人にとって懐かしい場所や特別な楽しみ(外食)などの外出支援を行っており、利用者や家族の方々にも喜ばれている。